

対話の現在を問う

P4C (子供のための哲学) モデルを実施するにあたって、哲学対話の原点を確認し、各々にとっての哲学の意味を問い直す機会としたい。

I 主宰者の現況

○『〈中〉のロゴス——東アジアの目から』(執筆中)

〈あいだ〉を開く → 〈中〉のロゴス

頂極主義 vs. 中道主義

〈道〉のロゴス——〈道の文化〉 ex. 武道

○反省——〈権力空間〉に対する恐れ。風土学の講義が参加者にとって負荷とならないよう、〈自由空間〉を開く必要があるのではないか。

II 課題としての〈対話〉——資料：「対話の原点と今」

○P4Cに立ち返る試み

- ① テーマの自由な持ち寄り——「自分のテーマを自分で考え、自分の言葉で表現する」
- ② テーマの共有——他人のテーマに心を閉ざさない
- ③ 各自の〈気づき〉へ——結論を開いておく